

第3回 仙北市角館地域審議会会議録

開催年月日 平成20年1月10日(木) 午後1時30分
開催場所 角館交流センター 第2研修室
会議に出席した委員

会 長 佐藤勇太郎
委 員 山本 陽一
" 柏谷圭一郎
" 茂木千代太郎
" 千葉 一明
" 中村 清悦
" 三杉真紀子
" 堺 研太郎

会議に欠席した委員

副会長 経徳 紘一
" 草薨 稔
" 青柳 良信
" 相馬 正男
" 藤枝知恵子
" 黒澤 美鈴
" 藤原 達朗

会議に出席した職員

角館地域センター長 藤川 実
総務部次長 倉橋 典夫
企画政策課主査 阿部 聡
総合窓口課長 清水 力
総合窓口課主査 奥田 良一
総合窓口課班長 本田 俊彦

書 記

清水総合窓口課長の司会により午後 1 時 30 分開会。

次に佐藤会長より、「当審議会も 3 回目の会議ということでご案内申し上げましたが、ご多忙にもかかわらず、ご出席いただきましてありがとうございます。ただ、今日の日程については、前回皆さんにご承知いただいた上で、決めさせていただいたわけですが、都合のつかない方がおられまして、全員出席での会議とならなかったことをお詫び申し上げます。今後の日程の関係で、先延ばしできない状況でしたので、どうかご理解の上、答申のまとめに向けて皆様からご意見を賜り、方向付けをしていきたいと考えますのでよろしくお願いいいたします。」とのあいさつがありました。

議事進行は会長が行い、次に、清水総合窓口課長より資料の説明

(説明の要約)

観光アンケート調査

19年8月9日午前10時～午後2時まで、角館駅前を含め市内の6箇所
調査したもので、347人から回答を得ております。調査時期がお盆前という
こともあり帰省された方が多く、関東からの観光客が半数を占め、東北は1
2%で特に青森、山形、福島の割合が低い。

訪れた季節の割合は、夏が36%で一番高く、冬は10%と低いことから、
冬季の誘客が課題となる。

交通、案内看板等の交通環境に不満が多く、自家用車での観光客が33%の
現状から、早期の対策が望まれる。

お土産の1位はお菓子で31%、2位が漬物19%となっている。観光客が
仙北市の漬物に興味を示していることがうかがえる。

合併からの人口動態

合併から2年、4月の人口動態は、転出が転入の2倍となっており、転出だ
けを見ると1年目247人、2年目204人となっている。18年度、市内の
高等学校2校の卒業生は312人、すべてが仙北市の学生ではないが、転出に
占める割合は大きいと思われる。

合併後の年代別人口推移

合併から2年で人口が32,638人から31,737人、901人の減少
となっている。少子化が進んで久しくなるので、各年代の減少は否めないところ
ですが、41歳から64歳の年代で472人の減少があり、全体の半分以上

を占めている。これは原因を探る必要があるのではないかと思います。

地区別入込み客延べ人数及び宿泊人数

これは、入込み人数に対し宿泊人数がどれだけあったのかを表にしたものです。たとえば、角館地区の場合、年間2,632,379人の入込みの内、50,180人が宿泊しており、52人に1人の割合となっている。仙北市全体では、8人に1人が宿泊している。

定住人口3万人の確保関連資料

これは、商業統計、工業統計を抜粋したもので、定住人口3万人の確保を考える場合、商店数、工場数及び従業員数の推移等を把握した上で、対策を検討する必要があると思われる。

清水総合窓口課長説明後、継続審議となっている議事(1)「定住人口3万人の確保について」に対する質疑の時間となり、各委員から質問、感想、意見が発言されました。

定住人口3万人の確保について

(佐藤会長)

それでは、継続審議ということで前回と同じテーマに沿って再び皆様からお話をいただきたいと思います。前回の会議では、テーマを三つに区分けした中で、全員で意見を深めてきたわけですが、中にはかなり深いものが指摘されているように私は感じています。どの項目をとっても軽視できない大きな内容を含んでいることから、どのような形で、分かりやすく、市に対し伝えることが出来るかを含めて、さらに深めていただきたいと思います。

また、今日欠席された委員から、各テーマについてのレポートが提出されておりますので、まとめの際に盛り込みたいと思います。

それでは、「定住人口3万人の確保について」から、お話をしていただきたいと思います。

(千葉委員)

前回、各委員が話されている内容を見て、私もそのとおりだと思いました。これからは、早急に取り組む部分と、長期間のビジョンを持って取り組む部分を分けて考え、整理する必要があると思われます。定住3万人を考える時、市民の根底に流れている、人に対する優しさや人間性的なものが他町村より誇れていないと、いくら定住をPRしても増加しないのではないかと。小さい時から道徳教育的なものに力をいれて、人間性豊かな人づくりを目指すことが、将来

的には、定住人口の確保につながっていくように思います。たとえば、「子供を産んで育てていく」というのは、なにもお母さんだけではなく、廻りの人たちが皆で育てていこうという気構え、そういう精神的なものも、小学校時代から道徳教育的なもので、少しずつ長い目で見ながらやっていかなければ、将来的にはなかなか難しいのではないかと思います。

(佐藤会長)

ハード面に目が向きがちですが、今の社会、ソフト面も重視される時代になっている。そこに、新しい展開の要素を見出せる可能性があるのではないか。これからは、みんなが心がけていくべきテーマになると思われる。

(佐藤会長)

空き家情報バンクには、その後、問い合わせはありましたか。

(倉橋総務部次長)

何件か紹介があり、現地を見にきていますが、契約にはいたっておりません。その空き家で、すぐに生活ができると思ってきましたが、状態によって改修が必要になる場合などは、二の足を踏むという事になります。

(佐藤会長)

実際にこちらに住むと言う事になれば、いろんな問題が出てくるとは思います。こちらでどれだけ応えられるかによって、相手の不安を和らげる事ができると思うので、その環境整備が大事だと思う。

(倉橋総務部次長)

前回の審議会で、堺委員から「総合的な定住の窓口が必要」との提案がありましたが、新年度から、定住の相談窓口としてのコーナー設置に向けて準備をすすめているところです。

(佐藤会長)

この審議会で話したことを、受け止めていただいた結果とすると、会議の意義を感じます。

(千葉委員)

観光アンケートを今後も実施するのであれば、「観光事業に反映したいと思います。ご協力をお願いします。」という文面にかえて、将来的に、私たちが話し合っている「定住人口3万人の確保や交流人口1千万人の具体的方策」を文面に謳うことにより、「今、定住人口は何人ですか」、「1千万人を目標にしているんですか」等、いろんなアクションが出ると思う。アンケートの取り方にも工夫が必要ではないかと思う。

(倉橋総務部次長)

今後は、千葉委員が言われたような視点から見て、観光課と考えていきたいと思えます。

(佐藤会長)

前回、「市内のアパート暮らしの若い夫婦の中には、持ち家希望の方もいるので、そういう方たちに対しても空き家情報の提供をするべきだ」という意見が出されました。なるほど、アパートから持ち家になれば定住につながる。外向けばかりに情報を発信するのではなく、足元も常に見据えて行かないと、大切なものを失うことになりかねない。関連して考えると、近隣の市町村から仙北市に通勤されている社員に対して、住宅の斡旋を考えた場合、企業との情報連携も必要になるのではないかと。ひとつの事をベースにして発展的に考えれば、いろんな繋がりが出てくる要件になる。

(佐藤会長)

老人の健康増進について、保健医療福祉面からの定住人口への取り組みとして、市の業務としてどのような課題の振り分けを行っているか。

(倉橋総務部次長)

保健課や福祉事務所等で、日常的に取り組んでいるところですが、特に、定住と関連付けて行っている事業は、今のところありません。新たな事業としては、県が健康づくり推進チームを設置して、大曲仙北管内の各地区に、健康づくりサポーター900人を配置したい、という作業をこれから始めるそうです。健康づくりサポーターは、各地区の住民の方をお願いする予定で、詳細については分かっておりません。

(佐藤会長)

たとえば、市をあげて重点項目について取り組む場合、司令塔になる機関がコントロールを司って振り分けした中で、その実績の結果をすべてコントロールしていかなければならない。そこまで監理しなければ、効果的な施策は見えてこないと思う。

(柏谷委員)

近所の方が、今どのような状況の中で生活しているのか、最近は分からなくなっているのが現状ではないか。お互いを理解するための交流、情報交換の場が、以前と比べて少なくなっている。昔は、だしゃっこ、無尽講等が盛んで、地域のコミュニケーションが図られていたように思われる。

また、他地域のことを理解するためには、公共的団体や民間団体等の合併を促進させていくことも必要である。

(千葉委員)

この間、テレビで秋田県は自殺者がかなり多いと聞きました。そういう方々の前兆的なものに対して、地域の方々や老人福祉に携わっているの方々の中には、きめ細かな対応が出来ていないところもあるのではないかと。地域の中で、地域の情報が不足していることにつながると思う。

(佐藤会長)

市民福祉の施策として、それらの予防対策が必要になると思う。県の健康づくりサポーターの活用と併せ、市独自のサポートが必要な場合は、積極的な取り組みが望まれる。

(茂木委員)

心の問題、介護、福祉等それぞれ大事なことで、「定住人口3万人」をテーマに人口を減らさないためにはどうしたらいいのか、様々な話をしてきましたが、もうひとつ考えていかなければならないのは、ここで生まれ育った人をここから離さないことも必要ではないかと思います。農村部を見ると、後継者のいない家が多くある。ほとんど兼業農家で西長野地区の土地改良を見ても、組合員が110人に対し、耕作面積は98haで平均すると1戸あたり1haに満たない状況。家に残っていても仕事がない、現金収入がなければ生活できないので、それを求めて出て行ってしまふ。ということが多くなっていることから、収入を得るための何かを一緒になって考えていかなければならない。

特産品開発などの地域興しを、地域ぐるみでおこない、収入を得るような事ができれば、ある程度人口の流出を防ぐ事ができるのではないかと。定住する人が増えれば消費も増え、活性化につながる。他からの導入も必要だけれども、地域興しも必要と思われる。

(柏谷委員)

具体的な方策が見いだせない場合には、現在ある良い点を伸ばしていくことも策の一つではないか。そのためにも地域内の情報交換がより重要になると思う。

(山本委員)

今、地方にとって働く場の確保は大変な状態だと思う。しかし、この現実をクリアしなければ定住化の道は無いように思う。我々が知恵を出し、出資し合っても職場作りをすることが大事だと思う。

(中村委員)

仙北市に住んで、大仙市や秋田市等の近隣の市町村に勤めて通っている人は多いと思います。ですから、もっともっと角館をおもしろく、ここに居たいと思わせるようにしていくことが大切ではないか。角館のお祭りには、角館町を出て行った人がほとんど戻ってきません。なぜか、それは角館のお祭りが好きだ

からだと思います。仕事がある、なしは別として「角館に住みたい、角館にいると楽しい」というものを考えなければならないと思う。

(柏谷委員)

角館のお祭りには、近隣から大勢の方がきていたが、最近は少なくなったように思える。「角館のお祭りはいいものだ」と言われているが、そのいいものを大切にして、なぜそのように言われているのかを、もう一度皆で考える必要があると思う。ただ、「お祭りだから」という理由だけではない筈である。

(茂木委員)

今の就労者は、交通路、通勤手段によっては、かなりの広範囲に通勤就労が出来ますので、工場誘致を考えると、付近市町村と連携し、男子型大企業工場・会社の誘致を進め、地域での就労を確保するような体制作りが必要と思う。

(千葉委員)

「角館が好きだ」ということはとても大事なことで、お祭りだけではなく、いろんな面で魅力ある街づくりをしていけばよいと思う。今年の正月、東京に行ってきました。正月ぐらいは故郷に帰るものだと思っていましたが、沢山の人がいて、なぜ故郷に帰らないのか聞いてみますと、「東京には、遊ぶ場所がいっぱいある。故郷に帰っても、何にも楽しくない。」ということで、故郷に魅力がなくなっているように感じた。

(佐藤会長)

「定住人口3万人の確保について」を話題にしているが、「交流人口1千万人の具体的方策」と関連するので、両方に話題を広げます。

前回、秋田県定住促進プランの説明がありましたが、このプランを仙北市独自のものとしてプランニングし、積極的に取り組む姿勢があっても良いと思う。

(堺委員)

平成9年に人口の推計を行った通りに、現在、仙北市の人口が推移していることに對し怖さを感じている。このままだと、この通り推移するだろうと考えざるを得ない。

工場誘致に関しては、角館の建築業者の方々が、本荘方面にたくさん働きに行っている。なにが行われているかというところ、TDKの巨大工事、長さ300m、約600億を投資するという前代未聞の工事が行われている。そこに向かって人が流れている。本荘方面は人的には、きびしい状態になっている。新たな人は、よそから雇い入れないといけない状況になっている。仙北

市地域の求人倍率0.44という事を考えると、人的資源はこちらにある訳ですから、積極的にアプローチしていく必要は当然あると思いますので、TDKの大きな工場を誘致していただきたいと思います。

平成19年度は大曲戦争といわれてまして、大曲に三つの大型店舗ができます。消費人口が大曲に吸い取られるだろうと考えられ、そのことにより近隣の大型店への影響が考えられ、雇用状態も変化するのではないかと。このことにしっかり対処していかないと、人口減少の加速していくような形になるのではないかと。思う。

年間観光客数1千万人以上の都市を見ていただくと解かる通り、有名な都市以外はない訳です。仙北市が1千万人をだした事で、笑っている人が結構いるのではないかと。やはり、身なりのものをやっていかななくてはならない。この市町村名を見たときに分かれるとおり、都市の名前が変わったところは1箇所もないわけで、前回の審議会でも話されたとおり、角館市という名前、もしくは田沢湖・角館市を、この審議会でも正々堂々と主張して頂かないと、観光客を伸ばすための宣伝パンフレットを含めて、改めて仙北市の名前を全国に伝えるという事は、100%不可能だと思います。是非このことについては、必ずこの会の結論として、こういう事が出ているということを出していただきたい。「意見が出ました」というだけでなく、強い声として出していただきたい。

ふるさと広報について

内向きの広報は、お知らせナビ等いろいろありますが、ふるさと広報は、密かに、ふるさと納税を意識したものです。

仙北市を離れ、各地で活躍している大勢の仲間たちと、ふるさとの情報を提供しあい、少子高齢化や人口減少対策等、地域振興に役立てることが出来ればと思います。そのためには、早急に市役所において、ふるさと会員のデータベースを作成していただきたいと思います。

たとえば、ふるさとの家がなくなった人にはホテルの割引券の発行を、ふるさとのおいしいものが出来たときには、ふるさと広報でお知らせするという形で、ふるさと会員と一緒に元気になって行ければと思います。

情報としては、イベント情報、同窓会・同級会情報、Uターン・住宅・求人情報等、ふるさとに帰って来たくなる様な内容にしたい。

(倉橋総務部次長)

ふるさと広報につきましては、来年度から自前で作成することになります。が、年2回ふるさと会員に送付するための予算を要求しております。

(佐藤会長)

従来の「角館町」や「田沢湖町」の名前を前面に出していくことはどうなのか。

(堺委員)

「仙北市」との併用を続けていると、いつまでも「仙北市」の名前が伝わらない。東京でキャンペーンをしてきましたが、「仙北市」を大きく掲げると素通りされ、「角館、田沢湖」にすると集まってくれる。これを繰り返しているのが現状です。観光で生きるのであれば、交流人口1千万人を目指すのであれば、「仙北市」という市名を、全国的に認知されている市名、認知させやすい市名に変更ことが重要になると考える。

(佐藤会長)

審議会としては、市名についての項目を入れ、意思表示をするということによってよろしいでしょうか。

異議なく了承

(柏谷委員)

秋田市に行くと、角館は羨ましいと言われる。

この地域にあって、他にない自然環境を大切にしていき、そのことを外に発信できるものがあれば発信するようにする。

(堺委員)

よそから見ると、打つ手があるように見られている。

(佐藤会長)

地元企業との協力体制を作り、定住3万人等の市が抱える課題について、地元企業と一緒に考えて考え、対応していくことが必要になると思う。

(千葉委員)

観光地だけの潤いであれば、観光に対して税金を使っているのだから、極端かもしれませんが観光で商売しているところからは、観光税(仮称)を徴収してもいいのではないかという考えにもなります。観光地だけが潤うのではなく、全体が潤うような施策でないと、人口は増えてはいかないのではないかと思います。

(茂木委員)

観光ルートを開拓し、観光地以外の地域でも恩恵を受けることが出来るようにすることが必要と思う。

(堺委員)

商工会で実施した例、5,000円の料金、約80人前後の参加、主に秋田市からの参加

- ◆ 第1弾 田沢湖10時間の旅
 - 田沢湖畔で実施、瀧分校
- ◆ 第2弾 神代・白岩10時間の旅
 - 神代大石家、白岩昔の旅館、白岩焼、広久内会館で婦人会の協力による昼食
- ◆ 第3弾 桧木内・西木10時間の旅
 - 戸澤氏の門屋城址、かたくり館、八津のかあさん方の栗ご飯・虫栗の利用方法

この事業は、あまり知られていない場所を選んで設定したコースで、食事についても、きりたんぼや稲庭うどんなどの有名なものは出さないで、その地域の食材を生かしたもので提供するようにしています。

課題としては、あまり知られていない場所ということで、地域に関連する歴史資料が不足していることから、調査研究及び案内人の育成が必要となる。この企画は、来年からJRに売り込む予定です。

(佐藤会長)

これは、まったく新しい観光コースの開発で、地域の人間との交流を組み入れた素晴らしい企画だと思う。

田沢湖、西木、角館で、何か物語的なコースを設定し、土地の人とふれあう機会を設けて交流していただくというようにできれば、交流することで感銘し、リピーターも増えるのではないかと思う。

それでは、次の課題「廃校の利活用について」に移りたいと思います。

廃校の利活用について

(倉橋総務部次長)

市の基本的な方針としては、東小学校は社会教育団体が使用できるような施設を考えています。維持管理の問題もありますので、教育委員会の公民館的な部門をそこに置くか、生涯学習課になるのか、いずれにしても、教育委員会関係の部署を、管理を兼ねて置きたいと考えております。

西長野小学校は、一部を地元のコミュニティーの場として使用していただくことになっています。体育館とグラウンドについては市民の方々に、その他については、具体的な使途が決まっておりません。使途については、地域の皆さんにもご意見をお伺いすることになっていますので、地域審議会のご意見をお

聞かせたいと思います。

具体的に用途が決まりますと、用途に合わせた施設の改修になるわけですが、現段階では、現状のままの活用となります。また、西長野小学校の管理については、4月から角館地域センターで行うことになっております。

維持管理については、両校とも原則として市で行う予定です。

(佐藤会長)

東小学校、西長野小学校のコミュニティ活動の活発化を目指す上で、経費はかかるが常駐の管理する人を置いてもらいたい。

(茂木委員)

東小学校、西長野小学校とも大きな施設なので、きちんとした計画の下で活用して欲しい。多少時期が遅れても、はっきりしたもので活用し、皆に喜ばれるものにして欲しい。

(堺委員)

小野崎家みたいにならないよう、行政が予算を持って管理するのならいいけど、中途半端にならないようにして欲しい。

大きな建物なので、それなりの維持管理費がかかることを念頭において、考えていかなければならない。

(千葉委員)

中途半端な利用をしていると、新しいものが建てられないこともある。

(佐藤会長)

地元要望も大切だが、市として、市民のためにどう活用するかという主体的なものが見えてもいいと思うが、あれだけの施設なのだから、市が主体となって、市民のためにどのように利活用していくのかを、市の方針として出さなければならない時期に来ていると思う。

西長野小学校を、農村に観光客を引き込むための中継点と考え、地域住民との関わりを持たせる拠点にすることで、グリーンツーリズムや夏季合宿、研修等の流入人口の拡大につなげるようなプランニングを持って呼びかけることによって、田舎のよさを宣伝できる。このような視点も考慮に入れて、市としても考えていただきたい。

(千葉委員)

とてもいい意見だと思います。付け加えますと、仙北市内には、「道の駅」といわれるものがないので、西長野小学校を「道の駅」に昇格させることも考えに入れてみてはどうか。全国には、いろんなサークルがあり、その中に全国の「道の駅」を踏破するサークルもあります。「道の駅」という全国に知れ渡ったネーミングが大きく影響していると思いますので、紙風船館やかたくり館も併

せて考えてみてはどうか。

(佐藤会長)

時間になりましたので、今日の審議会を終わりたいと思いますが、答申に向けてのまとめ役として、皆さんからお手伝いをいただきたいと思いますが、どのようにしたらよろしいでしょうか。

特にご意見がないようですので、皆さんご多忙のことと思いますが、お手伝いいただく方を、こちらでお願いしてよろしいでしょうか。

異議なし

それでは、堺委員、茂木委員、草薨委員の3名の方をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

第4回目の最終審議会は2月6日(水)午後から開催し、まとめていただいた答申案の審議を行い、会議終了後反省会を行うことでよろしいでしょうか。

異議なく了承

午後4時20分閉会